

# 小学部三年A組

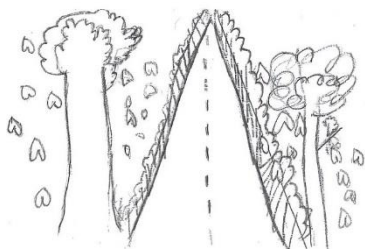
さくら

春のさくらは  
ものすごく きれい

お花見と いえば  
さくらの 下で

ごはんを 食べ  
さくらを 見て

あるいて あるいて  
さくらの道で



丸山  
りよう大

げいじゅつの秋

かぎ小野  
エマ

秋になった  
秋になった  
ついに 秋になった

秋は もみじや けやきや いちようが  
赤 黄色 オレンジ きれいだな  
いっぱいだ

秋を いっぱい絵にかこう  
冬になったら みんなおちちやう 悲しいな

だけど 秋の絵を見たら  
今日も わたしの心は秋の気分



どくりつきねん日

7月4日は  
どくりつきねん日

花火がバンバン  
パッパッパー

アメリカきたのは  
7月4日

だから ぼくのきねん日でもある

秋の詩

どんどん寒くなる空気  
なにかがいたる気がする

後ろからヒューと音がする  
ヒューと風の音

「ばあ〜！」  
お化けがおどろかせにくる

ハロウィンは楽しいな



中込 宝

エドゥー いずみ

「ちいちゃんのかげおくり」を読んて

かじ原 百か

このお話は、ちいちゃんのお父さんがせんそうに行く前の日に、ちいちゃんたちにかげおくりを教えて、それから家族をうしなっていくちいちゃんの気持ち表げんされたお話です。このお話に出てくるちいちゃんは、あきらめない女の子です。

このお話を読んで、ちいちゃんは、とても大へんなことで追われていたと思います。なぜかという、せんそうで家族とはなれて、がんばって生きていたことを感じるからです。私は、この時代のことを考えてしまい、こわくなってお話のつづきを読めなくなってしまうました。もしも、わたしがちいちゃんだとしたら、一日ももたなかったと思います。ちいちゃんはとてもゆう気のある女の子だったということがわかりました。

このお話を読み終わった時、悲しくて、もう二度と読みたくないという気持ちになりました。

おじいちゃんとおばあちゃん

藤解 千織

おじいちゃん、おばあちゃんがアメリカに十日間来てくれました。ホテル（オースティン）、プール、レストラン、メジャーリーグ、NASAにいっしょに行きました。家では、トランプやカードゲームなどをしました。

十日間の中で、とくに心にのこったことが三つあります。一つ目は、ホテルです。なぜかという、流れるプールやスライダーをしたからです。みんなで流れたのはじめてだったので、楽しか

ったです。また、ホテルのしき地内には動物がいました。おじいちゃんが馬とラマの名前を聞かえてよんでいておもしろかったです。

二つ目は、NASAです。うちゆうひ行でなくなった人やせいこうした人のことをたくさん知ることができて楽しかったです。また、お母さんとお父さんが ترامツアーを予やくしてくれました。また、おじいちゃんとおばあちゃんとすごせてとてもよかったです。

三つ目は、メジャーリーグです。わたしは野球のルールをよく知りませんが、お父さんが教えてくれました。おじいちゃんとおばあちゃんは、はじめてメジャーリーグに行ったので、よろこんでくれたと思います。

おじいちゃんとおばあちゃんとヒューストンやテキサスの有名な場所に行けたり、家でもたくさん遊んでくれたりしてうれしかったです。また、わたしも早く日本に帰りたかったです。

## D51がたじょう気きかん車

兒林 蒼志郎

ぼくは、夏休みに山口県下関（しものせき）市に行きました。下関市には、ぼくのおじいちゃんとおばあちゃんが住んでいます。お父さんとお母さんがお仕事をしていますので、ぼくは一人で七月二十四日から八月三日まで、下関の家におとまりしました。

山口県には、じょう気きかん車が走っています。このじょう気きかん車は土曜日と日曜日、そしてしゅく日だけ走ります。あまりきかん車に乗るチャンスがないので、おじいちゃんとおばあちゃんがきかん車に乗るチケットを用意してくれました。このきかん車はSLやまぐち号（SL山口）という名前です。「デゴイチ」というニックネームがあります。D51がたじょう気きかん車なので、このニックネームでよばれています。

二十六日土曜日、ぼくとおばあちゃんの二人で、山口県の新山口駅から島根（しまね）県の津和野（つわの）駅までデゴイチに乗りました。ぼくは一番後ろのグリーン車に乗りました。グリーン車にはデッキがついていて、外に出ることができます。走っているときに外に出ると、風が気持ちよくて汽笛の音が大きくなってうるさいこともありました。橋を通るときはガタンゴトンと大きな音がして、きかん車のスチームがもくもくと出ているのが見えました。

汽車は、ふみ切りをたくさん通かして、天気の良い山口県の線路をどんどん走って行きました。やく二時間の乗車だったけれど、汽車は思ったより速く進んで、すぐに終点の津和野駅に着きました。はじめのじょう気きかん車、いい思い出になりました。

## あまみ大島の海で家族と泳ぐ

はしもと かのん

今年の夏は、あまみ大島に一週間の旅行に行きました。

お母さんのお友だちがはたらいているホテルの前には、きれいな海があります。そこで海に入ると、海の中はとう明できれいでした。海から出ると、みんなが体がチクチクいたいと言いました。その正体は、チンクイえびなどのようせいです。わたしはどこもさされなかつたけれど、お父さんもお母さんもみんながいたいと言っていました。

しばらく遊んでいると、カメと泳いだツアーの人が帰ってきました。そして、ガイドの人がわたしたちのことをよんで、いっしょにカメの所までつれて行ってくれました。すごく大きいカメがいました。さんごしようも、とつてもきれいでした。お水がきれいだったので、弟は海にもぐらなくても水の上からでも見ることができました。

この海ではカメが住んでいるので、またあまみ大島に来た時には、会いに行きたいです。

## 一時帰国の思い出

箕輪 治紀

五月二十六日、ぼくは日本に一時帰国しました。今年の春に一時帰国が決まってからずっと楽しみにしていました。早起きして、タクシーで空港まで向かいました。りりくする時にひどい雨で二時間以内で待きして、フライトに十六時間もかかりました。

なり田空港でひさしぶりにすった日本の空気は、なつかしいにおいがしました。お父さんの仕事で一週間、横はまにとまりました。カッブヌードルミュージアムに行ったり、かんらん車に乗ったり、おじいちゃん合流して鉄道はく物館を見たりしました。お母さんと弟と一っしよに、東京駅まで新かん線を見に行きました。

北海道に動して、すぐにおばあちゃんの家に行きました。おばあちゃん「大きくなったね。」とむかえてくれて、ひさしぶりに会えて本当にうれしかったです。

札幌(さつぽろ)にもどってからは一週間だけ小学校にも通いました。なつかしい友だちや先生にも会えて、うれしかったです。友だちはアメリカのことをたくさんしつ問ってきて、答えるのに時間がかかりました。温せんやお祭りにも行って楽しい一ヶ月はあつという間にすぎました。

アメリカに帰る日は、おじいちゃんとおばあちゃんが空港まで見送りに来てくれました。弟がさみしくてないていて、ぼくもなきそうになつたけれど、がまんしました。

アメリカでも楽しい思い出をまたたくさん作りたいです。

## カンクン旅行

館 静馬

ぼくは、家族とカンクンへ旅行に行きました。

一番楽しかったのは、ジンベイザメと泳いだことです。そして気づいたことは、ジンベイザメの近くにはコバンザメという魚がいます。どうしてかという、ジンベイザメの近くには、てきがないから楽しんでごはんが食べれるからだとかガイドさんが教えてくれました。

次に楽しかったのは、セノーテというどうくつにある湖でダイブをしたり泳いだことです。魚をつかまえたりして遊びました。

次に楽しかったのは、ひさしぶりに海に入ったことです。しお水は大きいです。しおがからいからです。

海は波が多くて、深くて何回かおぼれたのでプールの方が楽しかったです。

また家族でカンクン旅行へ行きたいと思いました。

## ジャパンフェスティバル

植田 和志

ジャパンフェスティバルまでは車で一時間かかりました。ちゅう車場は今まで見た中で、いちばんすごいことになっていて、さいしよはお父さんは様子を見るだけと言っていました。けれども、お父さんにわがままを言ったら、ぼくたちだけおろしてくれました。

さいしよは、三人だけで行っていました。どこも行列だし、お母さんは十ドルが高いと言つてぜんぜん買つてくれませんでした。三十分ぐらいたって、ほとんどの所を見たところであきてきました。その時、お父さんたちがちゅう車場にとめてやつて来ました。何とか山にたど

り着いて、みんなで転がりました。

その後、すごく長い列をこえてタピオカを飲んだけれど、ぼくの飲んだものはあまくなくてお父さんのを飲みました。ぜんぜん楽しくなかったです。

### 日本の海でいそ遊び

ルーデマン 蘭奈

わたしは今、日本にいます。

きのう、お母さんとお母さんの弟とわたしの三人で、海に行きました。海では、いそ遊びをしました。着いたとき、いそは少しだけ出ていました。岩の間をのぞくと、カニとフナムシがいたので、わたしはぞわっとしました。

イソガニは、岩のすき間にかくれるので、つかまえるのがむずかしかったです。でも、十びきくらいつかまえました。遊んでいるうちにしおが引いて、すなはまも岩場もぐんぐん広がりました。カニのほかにも、ヤドカリやウミニナやフジツボ、カメノテなどを見つけました。その後、広くなったすなはまを歩きました。歩いても、歩いても、水はわたしの足首のちよつと上くらいでした。これは、とおあさというそうです。遠くまで歩いて行けたので、すごいと思いました。波のようでも、すながでこぼこになっていたので、足のうらが気持ちよかったです。

すなはまには、いろいろな物が打ち上げられていましたが、帰る前に、わたしはすごいものを見つけました。それは、大きなカブトガニでした。死がいでしたが、はじめて見たのでびっくりしました。

また行きたいです！

### ダイキン体けん学習

ホルトン ジュダ

十月十一日土曜日、ほ習校のじゅ業で、ダイキンの体けん学習に行きました。ぼくは、バスに乗ってみんなで出かけるのが、とても楽しみでした。前の日からワクワクして心待ちにしていました。

工場に着いた時、とても大きな工場だなと思いました。そして、三年生のみんなと写真をとりました。その後、工場の中に入りました。

はじめに、オーデトリウムの中に入って、せつ明を聞きました。そこはスクリーンがあつて、とても広かったです。スクリーンには、ダイキンパークの様子がつされていきました。その後、ダイキンのキャラクターのぴちよんくんが出てきました。ぴちよんくんは、大きくてバランスが悪くて、おもしろかったです。

その次に、いろいろなステーションに行きました。ステーションでは、回っているものはさわってはいけないと言われました。ぼくが一番すごいなと思ったステーションは、「安全道場」です。安全道場では、仕事をする人たちが安全にはたらくことができるように、くふうされていました。ここでは、かならずヘルメットをかぶるように言われました。それは、何かが落ちてきたときに頭を守るためです。また、安全道場にはとくべつな手ぶくろがあつて、その手ぶくろは、はさみなどで切っても切れないというすごい手ぶくろでした。どうやってその手ぶくろができてくるのか、とてもふしぎでした。

べつのステーションでは、いろいろなダイキンのエアコンを見ることができました。白くて、新しいエアコンはとてもきれいでした。新しいエアコンは、できてすぐ、こわれていないかなどのチェックをするのと学びました。もし、こわれていたり、うまく動かなければ、ちゃんと直してからお店に運ばれるということです。

ダイキンの体けん学習に行つて、工場では、いろいろなことに気をつけながらエアコンを作っているということを知りました。見たこと

のないものをたくさん見られて、よい体けんをすることができました。いろいろなことを学べた、すばらしい体けんでした。

#### ダイキン工場でおどろいたこと

田中 玲佳

十月十一日にダイキン工場に行つて、エアコンのことを学びました。わたしが工場が一番おどろいたことは、生さん工場です。なぜなら、見たことのないきかいがいろいろあつたからです。とくにおどろいたのは、でき上がったエアコンがちゃんとききうするか、たしかめるきかいです。それにはランプのようなものがついていて、ききうしているのなら緑色、ききうしていないのなら黄色に光り、ききいを通すことでエアコンがききうしているかしていないか、すぐにはんだんできることが面白いと思つたからです。

次におどろいたことは、エアコン一つに部品が千こもひつようなことです。わたしはエアコンにひつような部品は百こくらいかな、と思つていたので、千こひつようと聞いてとてもおどろきました。わたしはそれを聞いた時にどんな部品があるのだろうかと思ひました。実に工場を回つたら鉄のぼうやプラスチックの部品を使つていました。何気なく使つていたエアコンだけれど、工場を見学してこんなにくさんの工ていがあると思ひなかつたし、たぐさんの人がエアコンにかかわつていてすごいと思ひました。わたしたちの生活に深くかかわつていてエアコンを作つてくれてありがたいと思ひました。

#### 楽しい運動会

安藤 蓮

今日は十一月一日、運動会の日です。今日は早くほ習校のグラウンドに着きました。時間があまつていたので、テントを動かす手つたいをしました。一回動かしたのに、本当は反対がわかつたので、もう一回動かしました。

ついに運動会が始まります。さいしよは全員で開会式に出て、ラジオ体そをしました。ラジオ体操で体をやわらかくしたので、朝のつかれはなくなりました。次は大玉送りをしました。三回中三回とも赤が勝ちました。ぼくは赤組だったので、とてもうれしかったです。

その後、ようち部、一年、二年、三年、リレーのじゅん番で小学部のきようぎをやりました。みんながんばつていてえらかつたです。

そして三年生のプログラム、なかよくフラフープのじゅん番が来ました。ぼくたちはペアをかくにんして真ん中に行きました。ぼくのペアのミラートレイシーさんはけつせきだったので、田中さんとペアを組むことになりました。ぼくたちは四着でしたが、田中さんは二回も走つていて両方もがんばつたと思ひました。

へい会式で赤組が白組に五点さで負けました。とてもざんねんでしたが、来年またがんばればいいかと思ひました。運動会を終えて、赤組は負けましたが楽しかつたです。また来年まで楽しみに待ちます。

#### 運動会の感想

篠崎 柚花

今日は、待ちに待つた運動会でした。さいしよは、とてもきんちようしてあんまり楽しく思ひませんでした。でも、大玉送りきようぎが

始まる時、とてもきんちようしましたけれど、実さいにやってみると、きんちようしませんでした。ただこわかっただけと気づきましたので、それからはきんちようしないで楽しく運動会をすごせました。

大玉送りをやった時、三年生のところに入ってからとてもスピードが上がっていてすごいと思いました。大玉送りの時、三点全部取れてとてもうれしかったです。

次は、ようち部、一年生、二年生のじゅんで、私たちの「なかよくフラフープ」をする時間が来ました。とてもきんちようしましたけれど、あつという間に私のじゅん番が来てしまいました。前に行つて笛の音が鳴つた時、全力で走りました。一回目は二位になりましたけれど、二回目に走つた時は、一位になってとてもうれしかったです。

第四十七回の運動会はわたしにとっては、はじめのヒューストン日本語ほ習校の運動会でとてもきんちようしましたけれど、一位と二位が取れてうれしかった気持ちがありながら、赤組が白組に負けたこと、よくやしい気持ちもあり、来年もせいっぱい楽しめるといいなと思えました。

「たった2°Cで」を読んで

笹島 京太

「たった二度で：どうなるのだろう。」

これが、ぼくがこの本をえらんだ理由だ。本を読む前は、悪いことと良いことの両方が書かれていると思った。でも、実さいは悪いことだけだった。それで、地球温だん化は悪いことなのだと分かった。それで、止めようと思った。

いんしょうにのこつた場面は、魚にとつての二度のさは人間が感じる二十度のさがあるので、魚にとつての二度は相当のへん化があるのだ。ぼくも同じようないけないをしたことがある。去年十一月にアラ

スカへ行つた。そこでマイナス三十度を体けんした。外では、息がしにくく、外に長くいたらよだれや鼻水などがこおると思つた。人間は服を着て体を守るけれど、魚は服を着られない。魚たちは命がけで生きていく。だから魚や動物のために人間がなんとかしないといけない。この本を読んで、地球温だん化を止めないといけないと思つた。そのためには、はみがき中の水の出しっぱなしをやめたりして自分にもできることがあると知つた。